

姫路

TAKUSUI

1

2008年 January

No.615



新年のご挨拶

News

- JF丸山・JF阿那賀 2組合が合併仮契約調印
- 燃油高騰対策!「全国漁業代表者集会」開催!
- 兵庫県水産系統団体役員OB会 第1回通常総会開催

ウチの漁協! JF姫路市中部

CONTENTS

- 2 旬に想う
旅の土産に
表紙の言葉
- 3 新年のご挨拶
- 6 JF 丸山・JF 阿那賀 2 組合が合併仮契約調印
確定申告のお知らせ
- 7 NEWS
・燃油高騰対策!「全国漁業代表者集会」開催!
・兵庫県水産系統団体役員OB会 第1回通常総会開催
- 8 TOPICS
Part1 “節分に恵方に向かって巻きずしを
丸かぶりして幸運を呼び込む”
Part2 操業安全研修会開催
- 9 フリースペースour hour
JF兵庫漁連資材部取扱商品
貝殻リサイクルの推進/環境創出型魚礁
JFシェルナース
- 10 兵庫JCC通信
お魚パブ Quiz
- 11 行事予定
全国漁業協同組合学校学生募集
大輪田塾だより
- 12 ウチの漁協
JF 姫路市中部

表紙の言葉



- 明石海峡から昇ってきた朝日にかがやく港 -

刈り取ったばかりの海苔をいっばいに積んだ潜り船が戻ってきました。

今年は暖冬と言われますが、やはり冬の季節に夜明け前から沖での作業は寒くて辛い。

港に帰ると休む暇もなく加工場での作業がまっています。機械化が進んだ今日でも、漁師さんの仕事は大変重労働です。でも、黙々と働く姿からは「いい海苔を作りたい」との漁師さんの気持ちが伝わってきます。

毎年、いい海苔ができますように・・・この海がいつまでも豊かな海であることを心から祈ります。



写真と文 遊 芥 子



大社の注連縄

旅の土産に

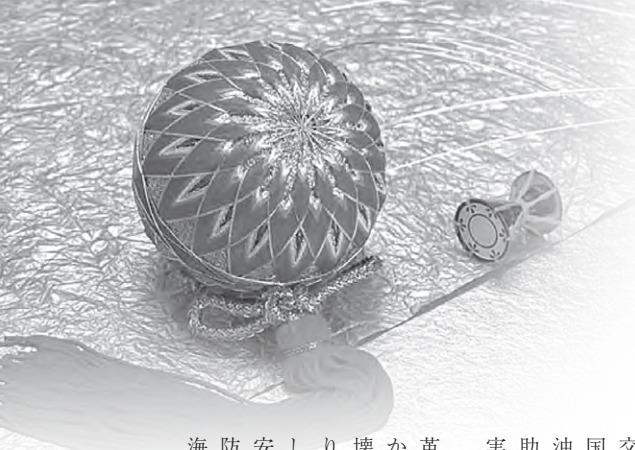
◆出雲大社の近くのワイナリーに立ち寄り、ワイン試飲で少し顔が赤くなった。これじゃ運転出来ないかと付近を散策し時間を潰したが、思わぬ観光が出来て損した感じはなかった。飲酒運転は絶対禁物である。旅先の味は、愉しみの要素であり、その気で探せば土地の旨い味が必ず見つかる。松江や金沢の城下町は、藩主が茶人だったせいで美味しい菓子があつた。故事来歴のある菓子に出会おうと、その土地の文化をも知る結果になり、とても得した感じである。「土産に旨いもの無し」というが、老舗の菓子には上品な味のものも多く、結構いいものに出会う。上げ底や見てくればかりの品は、旅の印象を悪くするし、必ず後悔する。土産にする品選びは、慎重にやりたいたいものである。

◆土産物店の駐車場へバスが入り、大勢がドツと店内へ流れ込む。そして手に手に土産品を持ってバスへ戻って行く。まことに日本的な旅行風景だが、旅行社と提携した土産物屋は旅行社を歓迎し、旅行社は客に満足して貰える。かくして大勢を捌ける大型店舗が増え、そうした店舗向けの土産品が量産される。結果、何処へ行っても何か似たような品物が並べられることになる。本来の土産とは、字の如く其の地で作られた産物の筈だが、北海道に出掛けて赤福餅を買ったというような、落語ネタになる事も

起こり得る。

◆北海道の東側は、不便さもあって観光的には未開の地域だが、ツアーに参加して網走・知床・根室と巡って来た。知床の山々の濃い緑、神秘的な湖の青さ、恐ろしい程の静けさの森、花期には少し遅かった湿原地帯の見事な広さ。納沙布岬では歯舞諸島の一つ水晶島が望めたが、あとの島々は濃霧のため見渡せなかった。手の届きそうな筈の北方四島が、不法占拠を実証する如く霧に閉ざされて、口惜しい感じだった。地元産毛蟹の味噌汁とコンブの佃煮を馳走され、土産に樟前昆布の宅配を頼んだ。今時の土産品の買い方だと思つたものだ。

◆沖縄のシーサーと北海道の木彫り人形が下駄箱の上に並んでいる。邪魔なのだが、どちらも他人様に頂いた土産品のため捨てられない。狭い住居に邪魔な品が増えるが、それが日常の姿なのだろうか。ある時期、旅行の度にミニチュアの菅笠を探して歩いた。小さくて高張らず、邪魔にならない所が気に入っていた。伊豆の下田で見つけた笠は「駕籠で行くのはお吉じゃないか」と墨書きしてある。熊野詣での檜木笠、柳川や伊香保では三度笠を買ひ、木曾路で小さな檜皮の笠を買った。どの品も既に乾燥し過ぎて、触るとバラバラになりそうだが、何れも旅の日を思い出させる無言の語り部なのである。



新年のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長

小松 司



新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、県下漁協・組合員の皆様ならびにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

めまぐるしく変化する社会情勢と、一層厳しさを増す経営環境にあって、漁業関係の皆様におかれましては、漁協経営の健全化に、また、漁家経営の向上に日々ご精励のことと存じます。

顧みますと、昨年は食品業界の産地表示や賞味期限の偽装問題が相次いで明るみに出るなど、消費者の信頼を裏切る話題で終始しました。私たち食品供給に携わる者として、改めて心痛させられました。

昨今、漁業を取り巻く環境は、資源の悪化や浜値の低迷が続き、特に、異常な原油の高騰は、漁業生産に深刻な事態をもたらしています。今後、こうした状況が長引くと、漁業の衰退だけでなく、漁業を主幹産業とする地域の経済にも悪影響を及ぼすことが危惧されます。本県においても、冬本番、但馬のカニ漁、瀬戸内海のノリやカキ養殖が最盛期を迎える中で、原油高騰に兵庫のすべての漁業者が大きな打撃を受けています。

このため、昨年12月に全国では「漁業経営危機突破集会」が開催され、本県でも県議会へ請願活動を行うとともに、水産振興議員連盟と漁協組合長による意見交換会を開催し、現場の現状を訴えました。この結果、国の平成19年度水産補正予算として、101億円の「燃油対策新基金」の設立が予算化されました。従来の補助事業には無い新しい対策も盛り込まれており、その実効性に期待を寄せています。

また、昨年、漁業・漁村の実態を無視した水産業改革に関する緊急提言が発表されました。国民生活に欠かすことのできない魚食が、水産業の衰退によって崩壊することは、国の食糧危機につながるとの認識であり、漁業界への警鐘と受け止めなければならぬでしょう。しかし、我々漁業者は、食料供給産業として、安全・安心な水産物を安定的に供給するため、「海の防人」を自覚し、漁業者の役割を果たすべく、豊かな海の世界を守り続けていきます。

わが国では魚離れが起きているとされていますが、

世界的には中国の生活水準向上等により、水産物の価格上昇はすでに始まっております。近い将来には国際的な奪い合いの時代に入るとの予測もあります。今、世界人口は66億人を超え、さらに毎年8千万人が増え続けると推計されています。飽食の時代のなかで食糧危機は遠い将来のように感じますが、水産物に関しては目前に迫っているのではないかと思います。

このように、難問山積の水産業界ではありますが、厳しいが故に協同組合精神に則り、水産の歴史・伝統を守り、持続的な資源管理のもと、近い将来、活気を取り戻す時代に備えるべきであると確信しております。いま漁業界は逆境の中にあつて、耐えるのではなく打って出る漁業を推進しなければなりません。

国・県では新しい海の畑づくりへの取組みとして播磨灘ならびに但馬地区において漁場整備構想が具体化されました。

JF兵庫漁連におきましても、「瀬戸内海を水産資源等の豊かな海に」と新法の整備実現を求め、瀬戸内海11府県漁連の幹事県として行政への要請活動を行い、また、瀬戸内海ブロック、日本海ブロックの資源回復計画の推進に努めてきました。更には、配送経費削減に向け、一宮町、坊勢、明石地区および妻鹿漁港で棧橋給油形態を導入しました。次に、魚価対策の一助としてカンカン隊（直販車）による水産物の消費推進・地産地消・魚食活動の強化等に全力で取り組んでいます。また、厳しい将来予測に備え、漁連における5カ年の中期計画を策定中であり、平成20年度半ばよりの実施を視野に入れております。また、水産のシンボルとして平成20年度完成予定の新水産会館建設を進めているところでもあります。

ここ数年来厳しい経営状況にありますが、浜の皆様とともに、系統組織が団結し、英知を結集して困難な状況を打破したいと考えます。瀬戸内海・日本海ともに漁業生産活動が順調に推移し、事故なく、浜に活気が絶えないことを願っております。

県下の漁業者はもとより、会員各位ならびに県ご当局・水産系統団体のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げます、新年の挨拶と致します。

元気で安全・安心な兵庫をめざして

兵庫県知事 井ノ敏三



新年あけましておめでとうございます。平成20年の節目の年が開けました。この20年間、わが国は、豊かさとは何かを問い続け、成長から成熟への構造転換を模索してきたと言えるでしょう。その歩みの中、兵庫は、大震災からの創造的復興をめざし、懸命に努力してきました。コミュニティ重視の地域活動や共助で築く安全安心の地域づくり。成長産業やものづくり産業が牽引する兵庫産業の再生。自然の偉大さを学び共生をめざす環境優先の社会づくり。地域個性や資源が光る交流の高まり。いずれも成熟社会の針路を示すものです。これからは、復興の過程で芽生えたこれらの取組みを礎として、新しい兵庫づくり、兵庫の再生に向けてスタートを切ります。

そのためにも、復旧復興を担ってきた財政状況を改革し、持続可能な構造にしていきたいと思います。

成熟社会の主役は、県民の皆さんです。一人ひとりの主体的な活動が、新しい兵庫をつくります。今春、日本最大のお菓子の祭典「姫路菓子博2008」が開かれます。環境大臣会合も開催され、国内外から多くの人々が訪れます。今こそ、兵庫らしさに磨きをかけ、内外に発信するときです。

参画と協働を基本姿勢に、人、産業、地域、社会の元気づくり、県民生活の質の向上、交流人口の拡大、家庭と地域の再構築の4つの視点で、「元気で安全・安心な兵庫」をめざしましょう。

“このとり 翔る大空 夢のせて
再生兵庫へ とともに歩まん”



兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

秋武 宏

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、会員ならびに組合員の皆様にご挨拶を申し上げます。

前年の本県漁業情勢は、瀬戸内海地区の海苔養殖において、生産枚数は増加したにもかかわらず単価の落ち込みが顕著であったことに加え、チリメン漁、イカナゴ漁においても、不漁に見舞われました。但馬地区におきましては、基幹である沖合底曳網漁業では、松葉ガニ漁が好調であったものの、カレイ・ハタハタなどの漁獲量は低調に推移いたしました。冬場を迎え本格化する今後の漁業生産に大きく期待するところであります。

水産業界では、魚価安に加え、燃油高騰が続く厳しい状況の年でありました。また水産業界がひとつとなつて漁業者の生の声を国政へ送り出そうと初めて実践した年でもありました。

信漁連におきましては、「中期経営計画・中期事業推進方策」に基づき、浜の暮らしに密着した金融機能を提供できる体制作り、営業面での系統利用率向上並びに資金量の増大、融資の拡大に努め事業展開を行ってまいりました。また、社会的規範を全うするよう努め、監事定数を一名増員して監査機能を充実し、健全経営に向けてリスク管理態勢の強化に取り組みしました。

一方で、事業管理費削減と資金運用の効率化等に努めておりますが、種々の内部統制の強化等、規制のレベルが年々高まり、経営コストは上昇基

調にあることから、一層の安定経営体制を構築することが急務となつております。「JFマリンバンク基本方針」を遵守し、財務の健全化・経営収支改善・体制整備の実践に取組み「信用事業安定運営責任体制（あんしん体制）」の確立を目指してまいります。

「浜の金融」の担い手として理念と特性を活かし、漁業者等利用者にとって安全で安心できる貯金の預入先であること、必要とする資金を安定的に供給できる金融機関であることが本会の最大の役割であることを認識し、真に漁業者等利用者の負託に応える事業を行う「JFマリンバンク」の構築を目指し、役員一丸となつて努力してまいりますので、一層のご支援・ご愛顧をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業のさらなる発展と皆様方のご健康ご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



兵庫県漁業共済組合
組合長理事

吉岡 修一

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

平成20年の年頭に当たり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、漁業を取り巻く環境は、資源の減少、魚価の低迷等により漁業経営は厳しい状況となっております。

特に燃油価格の高騰は、漁業の操業に多大な悪影響を及ぼしており、経営を圧迫する事態となっておりますが、このような時こそ、災害対策・漁業経営

安定対策としての「ぎよさい」の機能を利用して経営の安定を図る必要があるものと考えます。

現在、3カ年の全国新普及運動である「浜を守る！ぎよさい総加入運動」が展開されており、この全国運動に呼応して普及率の向上にむけて鋭意取り組んでおりますので、皆様方のご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、皆様ご承知のとおり、全国の漁業関係者の要望により本年4月より新たな漁業経営安定対策が実施されることとなっております。

これは、計画的な経営改善に取り組み経営体を対象として、収入変動の影響を緩和する対策であり、県・漁協系統が一体となり連携・協力して実施される事業です。

対象者は5つの要件の全てに該当する者となりますが、その要件の1つに漁業共済制度の加入が盛り込まれていることを踏まえると、今後ますます「ぎよさい」の重要性が増していくことは言うまでもないことと考えます。

漁業者の皆様には、漁業経営の維持発展のために経営は自分で守ると強い信念を持っていただき、是非とも全国の助け合い運動の輪に参加されまことを切に要望いたしますとともに、当組合が浜から信頼され、漁業経営のセーフティネットとして新時代の漁業と漁村づくりにますますの貢献ができれば、役員一丸となつて努力していく所存であります。

最後になりましたが、本年の豊漁と操業の安全、また、本県水産業の更なる発展と皆様方のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



兵庫県農林水産部
農林水産局水産課長

大谷 和夫

新しい年を迎えて

あけましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

顧みますと、昨年は年明けから暖かく、各地で冬の平均気温の最高値を更新しました。また、八月には岐阜県と埼玉県で、これまでの国内最高気温を更新する四〇・九℃を記録しました。このように、日々の暮らしでも地球温暖化が身近に感じられる状況になっており、その対策に向けて、世界各地で二酸化炭素の排出削減や自然回復の取組が行われています。

兵庫の海でも、慢性化するノリの色落ちや漁獲量の減少を契機に、瀬戸内海の再生を目指した取組が、漁業者・行政・県民など一体となつて行われています。現在、その活動は、多くの人々の共感を得て広がりを見せており、県の内外から大きな期待が寄せられています。県では、引き続き関係機関に働きかけを行い、皆様と共に豊かな漁場の再生を目指していくこととしています。

さらに、瀬戸内海では、播磨灘中西部で大規模な人工の瀬を整備する「第二の鹿ノ瀬構想（仮称）」の推進や、日本海では、山陰沖合でズワイガニやアカガレイの資源増大を目指した「国営沖合漁場整備事業」が開始されるなど、新たな漁場づくりの取組が行われており、漁場の再生とともに、漁業生産のさらなる安定に努めて参りたいと考えています。

一方、漁業生産の面では、台風等による大きな災害もなく、比較的穏やかな海況でしたが、ノリは平年作ながら単価の低迷により不調に、二月からのイカナゴは逆に不漁ながらも単価の高騰により平年並みとなりました。日本海ではズワイガニ漁が金額、漁獲量ともに近年の記録を更新し、過去最高となるなど、明るい兆しも伺うことができました。

漁業を巡る状況は、燃油の高騰をはじめ魚価の低迷などにより、厳しさを増しておりますが、持続的な水産業の発展には、自然環境の保全はもとより、漁業者の暮らしを支える協同組合の役割がますます重要になると考えられます。そのためにも、漁協組織が目指していく針路について、今後とも議論を深めていきたいと思っております。

最後に、皆様の操業安全と海の幸に恵まれますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



兵庫県農林水産部
農林水産局漁港課長
久保田 茂

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新春を健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。

昨年は漁港行政の推進に向けて、大きな節目の年であり、平成十九年度から始まる新たな五カ年計画として、漁港漁場整備の長期計画が六月に閣議決定されました。この長期計画では、漁港漁場整備法に基づき、総合的かつ計画的に事業を実施していくために、計画期間内における整備の基本的な考え方や実施の目標及び事業量が定められました。

具体的には、重点課題として、「わが国周辺水域における水産資源の生産力の向上」「国際競争力強化と力強い産地づくりの推進」「水産物の安定供給を支える安全で安心な漁村の形成」の3つが掲げられています。

さらに、概ね五年後の成果目標として、魚礁や

増養殖場を概ね七・五万ha新たに整備することなどにより水産物を十四・五万トン増産すること（概ね二・三〇万人の国民の消費を賄う水産物に相当）、また、漁業集落排水施設の整備を進めることにより漁村の排水処理人口比率を約六割に向上することなどが示されました。

この長期計画の基本方針は、本県の「農林水産ビジョン2015」と軌を一にしていますので、引き続き、漁業生産活動をより効率的に行うための漁港漁村の整備を進めていくこととしています。加えて、時代の要請やニーズの変化を敏感に受け止め、流通拠点機能の強化や環境保全・環境創造への取組みをはじめ、東南海・南海地震による津波や高潮に備えた総合的な防災対策の推進など、新たな施策についても積極的に展開してまいりますので、会員の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年一年の皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。



兵庫県農林水産技術総合センター
水産技術センター所長
八橋 忠良

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、水産技術センターにおきましては、水産業の持続的な発展を目指し、資源管理技術、増養殖技術などの開発と併せ、効率的に漁業経営が行えるように、漁場環境の迅速な把握と情報の提供

を行っていただいております。

瀬戸内海では、「瀬戸内海再生方策」の一環として、ノリの色落ち原因プランクトンの発生源と見られる播磨灘北部の漁場環境の改善を図るため、干潟、浅海域を中心に漁場環境の精密調査を行い、漁場環境改善方策の具体化を検討しています。また、ろ過性生物のアサリ、ウチムラサキの種苗生産技術、増養殖技術の開発に取り組んでおり、本年から新たに、カキの陸上人工種苗生産技術の開発に着手することとしています。

日本海では、資源管理をさらに進めるため、底びき網における大型クラゲや小型魚の混獲防止技術の開発、未利用資源の有効利用方法の検討などを行うとともに、近年発生するようになった有害赤潮による被害を未然に防止するため、日本海における広域モニタリング体制の構築を検討しています。また、安全・安心に加え、栄養があつて美味しい鮮魚や加工品を消費者に提供するため、成分分析や品質管理技術の開発を進めています。

さらに内水面では、アユ資源の増大を図るため、冷水病菌の生態解明を進めるとともに、新養殖魚種として、コレゴヌスの養殖技術開発試験を行っているところとです。

水産業を取り巻く環境は、燃油の高騰、魚価の低迷等年々厳しさを増していますが、水産業の発展のため鋭意努力する所存ですので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いたします。

最後になりましたが、本年が豊かな海の幸に恵まれた実り多い年になりますよう祈念しまして、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、全国津々浦々で活躍中の組合員の皆様並びにJFグループの皆様にご挨拶と謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨今の漁業経営は漁業者の自助努力を超えた様々な要因により、甚大な影響を受けており、JFグループの経営も益々の困難を余儀なくされております。このような時こそ、歴史と伝統により培われたJFグループの力を結集し、総力を挙げて難局を乗り越えていかなければならない、と決意を新たにしております。

特に、燃油高騰による漁業経営危機は一層深刻化しております。そのため昨年12月13日にはJFグループによる「漁業経営危機突破！全国漁業代表者集会」を開き、漁業生産の継続と経営を維持するための緊急対策を政府に強く求め、大型の基金設置が方向づけられたところであります。

また、経営不振JF対策については、赤字が累積している経営不振JFをこのまま放置すれば、組合員ばかりでなく、優良JF、地域社会にも大きな影響を及ぼしかねない、との観点から引き続き取り組んでまいります。

さらに、漁業生産の担い手となる経営体の育成・確保のため、収入の減少による経営への影響を緩和するセーフティネットとしてJFグループが長年にわたって要求してきた新たな漁業経営安定対策事業が2008年度予算の概算要求で認められ実現の運びとなりました。今後はこの制度の更なる充実を図り、所得の安定的な確保により漁業者が安心して漁業を営むことができるよう、全力で取り組む所存であります。

漁村全体の活性化方策としては、中期的視点での主な課題と展望を明らかにするとともに、対応の方向と政策支援のあり方について「経費を吸収しうる価格形成の実現」「生産の中心となる担い手の育成・確保と多様な担い手による漁業・漁村の活性化」などの提言を行うこととしております。

年頭のご挨拶

加えて、様々な変化する経済・社会情勢の中で

それぞれの施策を実現していくためには、浜の声と力を結集し、JFグループをあげて水産政治力の強化を図ることが不可欠であることから、昨年の参議院議員選挙においてオール水産で得た10万票を超えるご支援を重く受け止め、今後、大きな力として活用していきたいと存じます。

JF全漁連と致しましては、JFグループの皆様をはじめ社会からも信頼される組織となるよう役員一丸となつて、なお一層の努力を重ねてまいりる所存であります。

この1年が、皆様方にとり良い年でありまますよう祈念し、操業の安全と一層のご繁栄・ご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長

吉岡 修一

明るい未来のために

輝かしい平成20年の初春を迎え、全国津々浦々、浜の皆様は新年のお慶びを申し上げます。先ず始めに昨年発生いたしました大型台風や集中豪雨、能登半島沖地震といった自然災害により被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、わが国経済は、今後も国内民間需要に支えられた景気回復が続くものと見込まれています。また、生保業界にあつては逆ザヤが縮小しているものの保有契約の減少が続き、損保業界では保険金の支払い漏れ等に対する行政処分が各社の業績を左右しており、今後消費者の信頼回復をいかに果たしていくかが保険業界の共通の課題と

なっています。

さらに、JF共済の事業基盤であります漁業・漁村においては、燃油の急激な高騰、産地漁価の低迷や資源の減少に加え、漁業就業者の減少・高齢化が漁村地域の維持・存続にとって重大な課題となっております。

JF経営においても、今年3月末の「漁協合併促進法」の期限切れを踏まえた大型合併が引き続き全国で進められており、「V字回復」に向けた事業・組織・経営の見直しと漁家経済の安定に向けた取組みが大いに期待される所です。

こうした事業環境の中、とくに、現在作業がすすめられている水協法改正に関しては、JF共済の事業基盤の整備・強化と事業実施方法の変更を伴うことから、JF共水連マネジメント改革の推進やコンプライアンス・リスク管理態勢の整備・強化を含め、万全の態勢で臨んでまいります。

さらに、平成17年度に改正された新チョコーのさらなる定着をはかるとともに、昨年4月に改正されたくらしによる自然災害補償の充実と拡大を目指し、引き続き、各県の推進本部を軸とする漁協活動とJF共水連の緊密な連携のもと、いっそうの運動の強化によって所期の目標達成を期さなければならぬと考えます。

このため、19年度は「海！輝く未来へーJF共済3か年計画」の最終年度として、次期3か年計画への足がかりとなる重要な年度であり、残る僅かな期間ではありますが、全国の各地区でキャンペーンを強力に展開し、総力結集の歩みを続けて参りたく存じます。

どうか本年におきましても、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。誠にお願いを申し上げます。

最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

JF丸山・JF阿那賀 2組合が合併仮契約調印

12月21日(金)10時30分より、JF丸山・会議室においてJF丸山及びJF阿那賀の合併仮契約調印式が、組合関係者、行政、系統団体など、35名出席のもと開催されました。

調印に先立ち、小磯富男 JF丸山組合長より「漁獲量の減少や魚価の低迷、燃油の高騰など、漁業を取り巻く環境は厳しさを増している中、合併を契機に組合員の生活向上やJFの経営基盤強化に努めたい。」と挨拶が述べられました。

その後、JF兵庫漁連より合併仮契約書朗読の後、両JFの役員等関係者をはじめ、県・市行政関係者他多くの来賓等が見守る中、中田勝久 南あわじ市長並びに小松司 JF兵庫漁連会長の立会いのもと、合併仮契約書に調印が行われました。

調印後、立会人である中田市長、小松会長並びに大谷和夫 兵庫県水産課長より祝辞が述べられたあと、平成20年4月1日新組合となる「南あわじ漁業協同組合」の誕生に至るスケジュールの確認があり、滞りなく調印式は終了しました。



平成19年分の所得税の確定申告の相談及び申告書の受付は、平成20年2月18日(月)から同年3月17日(月)までです。

一部の税務署では、2月24日と3月2日に限り、日曜日でも確定申告の相談・申告書の受付を行います。詳しくは、国税庁ホームページへ【www.nta.go.jp】

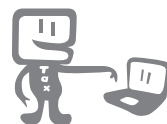
ネットでラクラク

「確定申告書等作成コーナー」からe-Taxへ簡単申告!!

国税庁ホームページ (www.nta.go.jp) の「確定申告書等作成コーナー」を利用いただくと、e-Tax用の申告データを作成することができ、作成したデータを簡単な操作により、自宅から電子申告することができます。

「e-Tax」を利用して申告すると・・・

- ① HPからカンタン申告
- ② 最高5,000円の税額控除
- ③ 添付書類が提出不要
- ④ 還付金がスピーディー



「作成コーナー」を利用すれば、e-Tax もラクラク

※ e-Tax を利用する場合は、開始届出書の提出、電子証明書の取得(費用がかかります)、ICカードリーダーの購入などの事前手続が必要です。

申告書の作成は「確定申告書等作成コーナー」で!



燃油高騰対策！

「全国漁業代表者集会」開催！



12月13日(木)、自民党本部にて燃油高騰対策を求め「漁業経営危機突破！全国漁業代表者会議」が開催され、全国より約700名の漁業者代表が結集しました。

開会において、中須勇雄 大日本水産会会長は「投機目的で燃油が高騰しており、この結果、我が国漁業の存続が危機に瀕している。こんなバカな話はない。」と怒りをあらわにし、続いて主催者を代表して服部郁弘 JF全漁連会長が「燃油コストの比率が高い漁業にとって、自助努力だけではどうにもならず、漁業経営の破綻とともに地域経済の崩壊にもつながる。基金創設による緊急支援対策の実施を強く求める。」と挨拶されました。

この後、早崎達哉 全国鮪近代化促進協議会会長と能登博之 北海道いか釣漁業協会会長からも「イカ釣漁業の3万人の仲間が断末魔の悲鳴を上げている。漁業者のためだけでなく、水産物の消費者のためにも、国の緊急支援措置

をお願いしたい。」と意見表明がなされ、会場からは「その通りだ」との声が上がりました。さらに小松司 JF兵庫漁連会長が「燃油高騰により、漁業者は操業を中断したり、出漁を断念せざるを得ないのが実状であり、この状況は廃業者の大量発生のみならず、わが国水産物の安定供給をも脅かす。」と決議文を読み上げると、会場から大きな拍手が湧き、「国民への食料安定供給の観点から、漁業生産を継続するためのあらゆる支援策を講じること」などの決議を満場一致で採択しました。

来賓として出席した谷垣禎一 政調会長、浜田靖一 水産総合調査会長は「自民党も、漁業者の声に応え、あらゆる政策を動員して窮状を打開していきたい。燃油高騰対策基金の増し積み等を検討するので、漁業者もスクラムを組んでがんばってほしい。」と述べました。最後に全員で「このままでは漁に出られないぞ」などシュプレヒコールを上げ、危機感に満ちた集会を終えました。



兵庫県水産系統団体役員OB会 第1回通常総会開催



11月23日(金)、グリーンヒルホテル明石にて兵庫県水産系統団体役員OB会第1回通常総会が開催されました。

本年5月に発足した同会は、このたびはじめての決算を迎え、寿進 幹事長は「OBだけでなく、現役の役職員とも交流を深めていきたい。」と挨拶されました。続いて来賓の小松司 JF兵庫漁連会長は「漁業を取り巻く環境が厳しさを増している折、OB会が益々発展するとともに、皆様の経験を後世にご教授いただきたい。」と述べられました。

議事においては、収支決算報告・収支計画ならびに規約

の改定について原案通り承認され、正会員は兵庫県水産系等団体を退任した常勤役員並びに定年退職した職員、準会員はその現役職員（兵庫県水産政策協議会幹事及び各水産系等団体の58歳以上の職員）、その他会員は幹事会で認めたと改定されました。

総会に引き続き開催された懇親会では、会員間で懐かしい話に花が咲き、今後の活動についても夢が膨らむなど、和やかなムードのうちに進み、閉会に際して、藤原力 副幹事長は「OB会の発展のため、会員間の連絡と協力をお願いします。」と述べられ、はじめての通常総会を終えました。



Part 1 TOPICS

ご存じですか？

“節分に恵方に向かって巻きずしを丸かぶりして幸運を呼び込む”

という関西地方の風習を

関西地方で古くから「節分の夜に、無言で、恵方に向かって巻きずしを丸かぶりすると幸運が訪れる」という言い習わしがあり、大阪を中心に“開運 巻きずしの丸かぶり”などと呼ばれ広く親しまれています。

2月3日の夜は、家族そろって恵方に向かい、無言で『巻きずしを丸かぶり』して、今年1年間の幸運を祈りましょう。



今年の恵方は **南 南 東**

なぜ節分に巻きずしなのか？ “丸かぶりの由来”

- ①節分に巻きずしを食べる風習は、言い伝えによると江戸時代末期か、明治の初めに大阪で始まり、船場の商家の「商売繁盛」「無病息災」「家内円満」の祈願として盛んになったようです。
- ②旧暦で季節の変わり目にあたる節分に、前年の災いを払い、新しい年の幸運を祈る一種の厄払いです。
- ③一説には、巻きずしを鬼の金棒に見立てて、「鬼は外・福は内」と豆をまくことと同じように、鬼退治をするという意味もあるようです。
- ④また、近江長浜時代からの秀吉の股肱の臣であった堀尾吉晴(1543~1611)が、出陣の前夜(ちょうど節分の日)、一族郎党ともに「巻きずし丸かぶり」をして恵方に向い戦勝祈願して出陣したところ勝ち戦が続いた。1582年、山崎の合戦では「天王山一番乗り」という大勲功をあげ、62百石の城持ち大名に出世し、以後、武功を重ね4万石の大大名にまで出世した。巻きずし丸かぶりは幸運を呼ぶ縁起担ぎという説もあります。

Part 2 TOPICS

救 魂

一人でも多くの命を救うために
第五管区海上保安本部 警備救難部

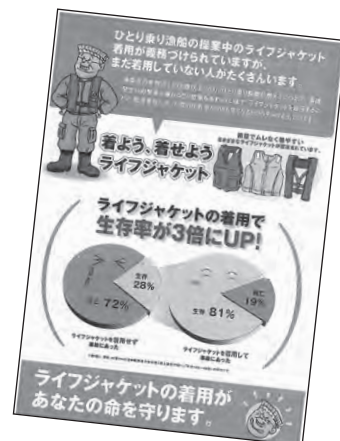
操業安全研修会開催

12月11日(火)、兵庫県水産会館にて平成19年度海難事故防止研修会が開催されました。JF兵庫漁連、共水連兵庫事務所、内海漁船保険組合、(財)ひょうご豊かな海づくり協会、(財)兵庫県水産振興基金による共催のもと、県下各JFや県、系統団体より約110名が出席しました。

この研修は、近年の漁船事故の増加や、4月からの一人乗り操業におけるライフジャケット着用義務化を受けて開催され、第5管区海上保安本部 警備救難部 原田敬司課長より「最近の海上事故例と事故防止対策」、神戸運輸管理部 船員労働環境・海技資格課 藤原和弘専門官より「船舶職員法及び小型船舶操縦者法施行規則の改正について」、また、全漁連顧問弁護士の成田健治弁護士より「海難事故初期対応措置並びに損害賠償事例と実務」と題してそれぞれ講演されました。



安全操業は勿論のことですが、万一、不幸にして事故に至った場合に、①ライフジャケット着用の重要性を再確認。②初動措置・体制次第で、その後の賠償問題や保険処理に大きく影響することなどを出席者は、終始熱心に受講していました。



JF兵庫漁連資材部取扱商品

貝殻リサイクルの推進 環境創出型魚礁

JFシェルナース

貝殻リサイクル魚礁「シェルナース」は漁業関係者の皆様にご理解とご協力を頂き、JF 全漁連の JF ブランド商品となりました。日本の水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増している中、多くの漁業関係者が参加し、豊かな海づくりに貢献できる JF シェルナースの重要性はさらに高まっています。

そこで、今号より 3 回にわたり「開発の経緯」「現在の取組状況」「今後の展望」についてご紹介いたします。



基質を製作する漁業者

JFシェルナースとは？

カキやホタテ、アコヤなどの貝殻をメッシュパイプに詰めた餌料生物培養基質をパネル状にして組み立てた構造で、魚介類を増やすことに力を入れた魚礁です。

開発の経緯

JFシェルナースを開発した海洋建設(株)社長の片山敬一氏は元漁業者で、魚介類を増やすためには漁場の改良が必要だと考えていました。

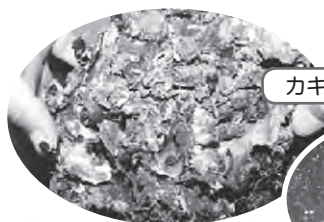
そこで、人工魚礁の技術を用いることにし、より魚を増やすには餌と隠れ場を増やすことが重要だと考え、そのための数種類の実験を行いました。その中で、通水性ケースの中にカキ殻を充填したものは、小さなエビやカニ、ゴカイなどがとても多く生息することがわかりました。また、カキ殻は自然素材で環境に良いこと、処理に困っていたことなどからカキ殻魚礁を開発しました。

カキ殻魚礁で最初に考案されたのが、写真(右上)のマダコの産卵保護礁でした。タコ漁や潜水器を使った漁業に従事していた経験を活かし、親ダコの産卵にはタコツボを、稚ダコの餌と隠れ場の確保にはカキ殻ケースを使用しました。その結果、産卵保護礁には高い確率で親ダコが産卵し、カキ殻ケースに隠れる稚ダコも見られました。また、マダコ以外にもメバルやカサゴ、マダイなどの魚類に対する効果も高いことがわかりました。

平成元年頃から、岡山県内の魚礁の調査を委託され実施している中で、カキ殻の餌料培養効果に県の担当者が興味を持たれ、水産庁の漁場整備事業に使用できるように必要なデータを収集しました。そして、平成7年度に岡山県が事業主体となり、笠岡市沖の白石島海洋牧場に採用されました。



マダコ産卵保護礁



カキ殻ケース内の餌生物



タコツボで産卵する親ダコ



兵庫県(浜坂地区)に採用された
シェルナース 1.5 型

上記のような経緯によって開発された JF シェルナースは、現在では本県をはじめ北は北海道から南は沖縄県まで全国各地に 6500 基以上が採用されるに至りました。次号では、JF シェルナースの現状についてご紹介いたします。

URL <http://www.kaiyoh.co.jp>

資料請求・お問い合わせ JF 兵庫漁連資材部まで TEL.078-942-9272

親子で食農教育 農業体験スクールで芋ほり楽しむ

みのり JA 女性会と JA みのり主催の「親子農業体験スクール」が昨年11月25日、西脇市上比延の山上章三氏の畑で行われ、親子100組200名が参加。青空の下で食を学び、農作業体験を楽しみました。

土に触れ、収穫の喜び・農業の楽しさ・食べ物の大切さを知ってもらおうと初めて企画。手を真っ黒にしながら、じゃがいも、大根、さつまいもなどを「こんなに大きいのが採れた」「犬みたいな形を見つけた」と、親子で楽しく収穫しました。特産の黒田庄和牛やじゃがいもを用いた肉じゃがやおでんを JA 女性会役員が調理。地元産米を使ったおにぎりや焼きいもを振る舞い、採れたての作物のおいしさと食べ物の大切さをかみ締めながら味わいました。

管理栄養士・鷹尾志津代氏による腹話術と手品を交えた食育講座では、「食べ物は体を動かす源でとても大切。好き嫌いせずに食べようね」との鷹尾さんの呼び掛けに、参加した子どもたちは「はい！」と元気よく答えました。



「よっこらしよ、どっこいしょ」と親子で芋ほり

ラインの館で ファミリークリスマスを開催しました

昨年12月25日（火）にラインの館にて、「ファミリークリスマス」を開催しました。これは子供さんにも、もっとラインの館に親しんでいただこうと、親子で気軽に参加できるイベントとして、2年前から始めたものです。

今回も兵庫大学短期大学部保育科の人形劇サークル「わくわくさんのポケット」にご協力いただき、人形劇や手話の歌を披露していただきました。その他、ピアニストと声楽の方にもご協力いただき、参加者の方々とクリスマスソングを合唱するなど、わきあいあいとしたイベントとなりました。

参加者の方々からは、「人形劇を見たのは初めてで楽しかった」、「なかなか子供と異人館に来る機会がないのでよかった」などのお声をいただき、ラインの館のイメージアップに繋がったのではないかと思います。

これからも、ラインの館により一層親しみを感じていただけるような様々なイベントを随時開催していく予定です。



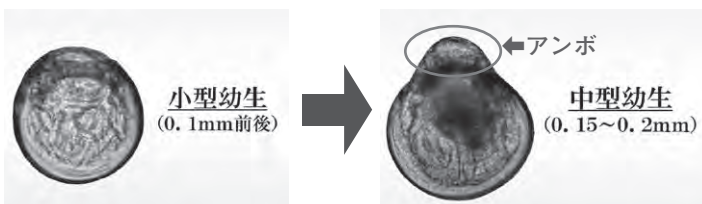
皆さんで合唱しました

お魚バブバブ Quiz

魚貝類の赤ちゃんは、親と似ていない場合も多く、生まれた姿やその成長過程で面白い特徴がある種類も多く存在します。



今月は貝類の赤ちゃんクイズです。 さて何でしょう。



写真提供：兵庫県立水産技術センター

ヒント

- ① 中型幼生になると殻頂部分「アンボ」(写真)が突出してきます。
- ② 県下では、主に西播地区で養殖されており、兵庫県の生産量は広島、宮城、岩手、岡山に次いで、全国5位です。(平成17年農林水産統計)
- ③ 殻のまま販売される場合と、身だけ(むき身)で販売される場合があります。

答えは、編集後記の下部に掲載しています。



行事予定

<変更になる場合があります>

JF 兵庫漁連		
1月	29日(火)	第6回のり入札会
2月	6日(水)	第7回のり入札会
	21日(木)	第8回のり入札会

内海漁保		
1月	29日(火) ~ 30日(水)	13:30 ~ 漁船保険等損害審査実務研修会(東京)

兵庫県		
1月	23日(水)	但馬海区漁調委 13:30 ~ 公聴会 14:00 ~ 委員会 (但馬漁業センター)
	29日(火)	水産主務課長会議(農林水産省)

JF 兵庫信漁連		
1月	23日(水)	13:30 ~ JFM中央本部委員会
	25日(金)	理事会

但馬漁保		
1月	29日(火) ~ 30日(水)	漁船保険等損害審査実務研修会(東京)

その他		
1月	26日(土)	17:30 ~ 鹿ノ瀬会総会(人丸花壇)
	27日(日)	室津かきまつり(綾部山梅林入口) 相生かきまつり(野瀬公園)
2月	2日(土)	16:00 ~ 西濤会役員会 17:00 ~ 西濤会総会(淡路国際ホテルアレックス)
	3日(日)	JF赤穂市カキイベント(赤穂海浜公園)
	11日(月)	姫路とれとれ海産物まつり(家老屋敷跡公園)

JF 共水連兵庫		
1月	22日(水)	西日本ブロック会議(虎ノ門パストラル)
	31日(木)	13:30 ~ 水協法改正説明会(大会議室)

振興基金		
1月	22日(火)	13:30 ~ 大輪田塾
2月	6日(水)	11:00 ~ 山田記念賞表彰式(ポートピアホテル)

学生募集

平成20年度 第69期

全国漁業協同組合学校

JF(漁協)を担う若きリーダーを育む

修業年限: 1年・全寮制 定員: 50人(男女共学)

入学願書ご希望の方は本校にご連絡ください。

願書受付 第3回 H20年1月21日~3月14日

入学選考 第3回 H20年3月21日

選考会場 各都道府県漁連・県漁協

連絡先 全国漁業協同組合学校

〒277-0854 千葉県柏市豊町1-4-5

TEL 04-7144-8125 FAX 04-7145-5003

<http://www.jf-net.ne.jp/kumiaigakkou/>

大輪田塾だより

12月18日(火)、兵庫県水産会館にて大輪田塾が開催され、水産庁境港漁業調整事務所 上田勝彦資源管理計画官が「資源管理の取り組みについて」(境港の事例~ベニズワイガニ~)と題して講義を行いました。

塾生らは、行政における資源・漁業管理の方向性を学びながら、これからの漁業体制と漁家経営に強い危機感を覚え、活発に質疑を行いました。上田計画官からは、「漁業者が何をしたいのか明確にして、系統団体や行政がそれをお手伝いし、継続して実行することが大事です。」と語られました。



大輪田塾についてはJF兵庫漁連ホームページ

<http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren> より《会員・職員》のページへ ➡ パスワードを入力し《大輪田塾》のページへ

編集後記

あけましておめでとうございます。

いよいよ平成20年がスタートいたしました。

私にとっても、やっと大殺界が終わり、細木数子におびえる事も無くなりました。

(小さいな~) これから春を迎え、すがすがしく1年を送りたいものです。

拓水は JF 兵庫漁連 HP にて掲載中です

▶▶▶ <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>

P10 お魚バババQuiz 答え【マガキ】

訂正とお詫び

拓水12月号(No.614)の7ページにおいて「カキイベント開催」の記事を掲載いたしました。正しくは以下の通りとなります。ご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。

誤

1月20日(日)
室津



正

1月27日(日)
綾部山梅林入口

2月3日(日)
坂越海の駅



2月3日(日)
赤穂海浜公園

3漁協の思い・技術を1つに、

新たな組合づくりを 目指す!



阿成
妻鹿 広畑

No.52

JF 姫路市
中部

播磨灘に注ぐ姫路市の主要河川である市川と夢前川。その市川の対岸に位置する姫路市妻鹿地区と阿成地区、そして、夢前川に面し、特定重要港湾である姫路港に包括される広畑港を有する広畑地区。この



3地区にまたがっていた妻鹿漁業協同組合、阿成漁業協同組合、広畑漁業協同組合の3漁協が合併し、平成14年に新たなスタートをきったのが、今回ご紹介する姫路市中部漁業協同組合です。

山・川・海に囲まれ、恵まれた自然の中で行われるJF姫路市中部の漁は、底びき網漁、カゴ網漁、貝漁の3漁法を中心として展開されています。底びき網漁では小エビ、車エビ、カレイ、カゴ網漁ではタコやガシラ、そして貝漁ではアサリ、ハマグリ、赤貝など、市川や夢前川の栄養分を含んだ豊かな海で、新鮮な魚介類が水揚げされています。また、市川が流れる阿成地区では、鮎などの川魚が獲れるという特徴もあります。

実に多種多様な魚が獲れることが特徴といえるJF姫路市中部ですが、3つの漁協が合併したことによって、事務的な面はスリム化しながら、漁業の面ではそれぞれの地区の特徴や伝統を活かしたことから、3漁協の良い部分が残り、結果として多種多様な漁業が展開されているといえます。



戦前の魚市場

このように、現在は3地区の特徴を活かしながら漁業を行っているJF姫路市中部ですが、その歴史をさかのぼると、この地域が大変漁業の盛んな地域であったこと、また姫路市の漁業にとって重要な役割を果たしていたことがうかがえます。というのも、妻鹿地区は昭和35年まで姫路市の中央魚市場があ

り、新鮮な魚介類が多く水揚げされ、セリが行われており、さらに、妻鹿漁港は川の河口に位置し、船の行き来がしやすい立地であることから、全国に向けての輸送を行う、漁港として最も利用規模の大きな第三種漁港の指定を受けていたからです。

妻鹿の魚市場は、まさに姫路市の漁業の中心地であり、全国から魚が集まってくる大変大きな市場でした。セリによる掛け声や漁師や問屋、仲買人など、多くの人々が往来し、朝から晩までそのにぎわいは絶えなかったといいます。また、第三種漁港であった妻鹿漁港には、淡路や四国からの出買船などがひっきりなしに行き交い、大変活気に満ちていたといいます。



鮮魚の行商(昭和43年)



御幸岩神社(妻鹿漁港魚市場跡)

さて、現在の妻鹿漁港はというと、第三種漁港から第二種漁港へと変わりましたが、地元漁船はもちろん、周辺の漁協などにも利用されており、姫路の漁業に欠かすことの出来ない、JF姫路市中部のシンボルとして今なお健在です。昔の漁師町としてのにぎわいは薄れたものの、昔の豊かな海を取り戻すという大きな課題に対して放流を行うなど、組合員が一丸となって、新たな時代の漁業へ向けて取り組んでいます。そうした中で、以前よりヒラメが多く見られるようになるなど、成果も徐々に見えてきています。今後はバックフィッシュを心掛け、オコゼの放流にもチャレンジしたい! と非常に意欲的な組合員の皆さん。妻鹿・阿成・広畑のそれぞれが歩んできた漁業の歴史と技術、そしてパワーを1つにして、これからも積極果敢に突き進んでいってほしいと思います。

<漁協メモ>

姫路市中部漁業協同組合
代表理事組合長 金澤 義之
組合設立日 平成14年6月3日
組合員数 正組合員57名、
准組合員24名/
計81名

